

Hello! FUJISEI

No. 105

手元に届いた年金定期便を見ると、その金額に愕然とします。“優雅な年金生活”などとんでもない話と、老後について真剣に考えるようになった方も少なくないようです。50代になって気づいてもまだ間に合いますが、やはり準備は早め早めにしておきたいものです。

総務省のまとめた「家計調査報告（家計収支編）—平成23年平均速報結果の概況—」から老後生活の収支状況をみてみましょう。

●可処分所得は実質減少

総世帯のうち高齢無職世帯（世帯主が60歳以上の無職世帯）の実収入は181,921円で、前年に比べ実質0.7%の減少でした。内訳をみると、公的年金などの社会保障給付は、実収入の約9割を占める158,743円で、前年に比べ実質1.2%の減少。一方、直接税、社会保険料などの非消費支出は23,399円で、前年に比べ名目0.4%の減少となりました。その結果、可処分所得は158,522円で、実質0.7%の減少でした。

●消費支出は実質増加

消費支出は202,973

老後生活、早めの準備が必要です

不足分は金融資産の取り崩しなどで賄う

円で、前年に比べ実質1.8%の増加でした。内訳をみると、交通・通信、教養娯楽、光熱・水道などが実質減少となり、食料、被服及び履物などが実質増加となっています。

消費支出の費目別構成比をみると、食料、交際費などの「その他の消費支出」、被服及び履物などの割合が上昇し、交通・通信、教養娯楽の割合が低下しています。総世帯と比べると、「その他の消費支出」、保健医療、食料、光熱・水道などの割合が高くなっています。なお、エンゲル係数は25.2%と、前年に比べ0.9ポイントの上昇でした。

●平均消費性向は低下

消費支出が可処分所得を上回る高齢無職世帯の平均消費性向は128.0%で、前年に比べ1.4ポイント減少しました。消費支出に対する可処分所得の不足分は44,451円で、前年に比べ2,665円減少。不足分は金融資産の取り崩しなどで賄われています。

なお、世帯主が60歳以上の世帯に占める無職世帯の割合は68.3%で、前年（67.8%）に比べ0.5ポイント上昇しています。勤労者世帯の割合は15.3%で、0.1ポイント上昇でした。

高齢無職世帯の家計収支（総世帯）

資料：総務省「家計調査報告（家計収支編）—平成23年平均速報結果の概況—」より

